

令和8年2月15日（日）施行

第221回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

1	直接労務費	2	直接材料費	3	間接経費
4	間接労務費	5	間接材料費		

第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材 料	407,500	買 掛 金	407,500
2	仕 掛 品 製 造 間 接 費	250,000 30,000	材 料	280,000
3	仕 掛 品 製 造 間 接 費	360,000 60,000	賃 金	420,000
4	仕 掛 品	720,000	製 造 間 接 費	720,000
5	製 品	1,530,000	仕 掛 品	1,530,000
6	現 金 売 上 原 価	3,100,000 2,480,000	売 上 製 品	3,100,000 2,480,000

第3問

直接材料費

月初仕掛品	？ 個	¥	67,900	当月完成品	3,480 個	(¥	2,557,800)
当月投入	？ 個	¥	2,578,100	月末仕掛品	？ 個	(¥	88,200)

加工費

月初仕掛品	？ 個	¥	56,530	当月完成品	3,480 個	(¥	4,176,000)
当月投入	？ 個	¥	4,167,470	月末仕掛品	？ 個	(¥	48,000)

第4問

①	オ	②	ア	③	ウ	④	イ	⑤	エ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第5問

原価計算表

(単位：円)

製造指図書 摘要	#65	#66	#67	合計
月初仕掛品原価	(378,700)	—	—	(378,700)
直接材料費	(122,000)	(451,000)	(366,000)	(939,000)
直接労務費	(320,400)	(391,200)	(128,400)	840,000
製造間接費	(448,560)	(547,680)	(179,760)	(1,176,000)
合計	(1,269,660)	(1,389,880)	(674,160)	(3,333,700)
備考	完成	完成	仕掛中	

令和8年2月15日（日）施行

第221回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

第1問

1. 直接工が組立用機械の段取替作業に要した時間に対する賃金消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる労務費であるため、直接労務費である。
2. 自転車に取り付ける主要部品の消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる材料費であるため、主要材料として直接材料費である。
3. 当月に発生した主要部品の棚卸減耗額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる経費ではないため、間接経費である。
4. 修繕工が組立用機械の修繕に要した時間に対する賃金消費額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる労務費ではないため、間接労務費である。
5. 製品の仕上げに用いるペーパーヤスリの消費額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる材料費ではないため、消耗工具器具備品費として間接材料費である。

第2問

1. 素材(主要材料)と工場消耗品を購入した場合には、借方に材料勘定(資産の増加)を用いて処理する。
代金は月末に現金で支払うこととした場合には、貸方に買掛金勘定(負債の増加)を用いて処理する。
素材(主要材料)の取得原価 = @ ¥4,000 × 100kg = ¥400,000
工場消耗品の取得原価 = @ ¥150 × 50個 = ¥7,500
材料の取得原価 = 素材 ¥400,000 + 工場消耗品 ¥7,500 = ¥407,500
2. 素材(主要材料)と補助材料を倉庫から出庫した場合には、貸方に材料勘定(資産の減少)を用いて処理する。
出庫した素材(主要材料)は、直接材料費となるため、材料勘定(資産の勘定)から仕掛品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
出庫した補助材料は、間接材料費となるため、材料勘定(資産の勘定)から製造間接費勘定(費用の勘定)へ振り替える処理をする。
3. 当月の直接工による賃金を消費した場合には、貸方に賃金勘定(費用の勘定)を用いて処理する。
当月の直接工による就業時間のうち段取時間と加工時間に相当する賃金は、直接労務費となり、賃金勘定(費用の勘定)から仕掛品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
当月の直接工による就業時間のうち間接作業時間と手待時間に相当する賃金は、間接労務費となり、賃金勘定(費用の勘定)から製造間接費勘定(費用の勘定)へ振り替える処理をする。
加工時間 = 就業時間 420 時間 - 段取時間 30 時間 - 間接作業時間 50 時間 - 手待時間 10 時間 = 330 時間
仕掛品(直接労務費) : 実際消費賃率 @ ¥1,000 × (段取時間 30 時間 + 加工時間 330 時間) = ¥360,000
製造間接費(間接労務費) : 実際消費賃率 @ ¥1,000 × (間接作業時間 50 時間 + 手待時間 10 時間) = ¥60,000
4. 製造間接費の当月実際発生額を各製品に配賦した場合には、製造間接費勘定(費用の勘定)から仕掛品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
5. 当月に完成した製品を倉庫に運び入れた場合には、完成品の製造原価を仕掛品勘定(資産の勘定)から製品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
6. 倉庫で保管していた製品を得意先に引き渡し、代金は得意先振出しの小切手で受け取った場合には、借方に現金勘定(資産の増加)を用いて処理し、貸方に売上勘定(収益の発生)を用いて処理する。
また、同時に売上原価を計上した場合には、販売した製品の原価を製品勘定(資産の減少)から売上原価勘定(費用の発生)へ振り替える処理をする。

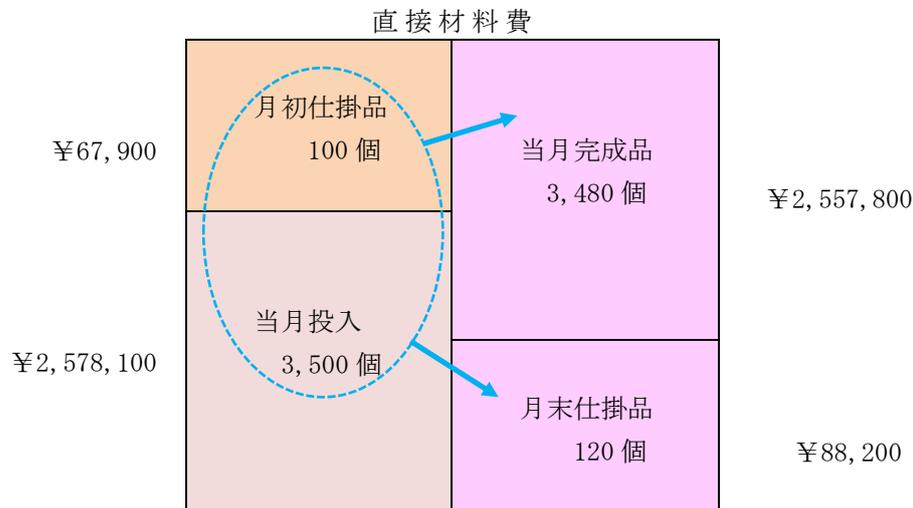
製造原価の25%を利益として製造原価に上乗せして販売しているため、以下のとおり、製造原価を計上する。

製造原価 = 売価 ¥3,100,000 ÷ (100% + 25%) = ¥2,480,000

第3問

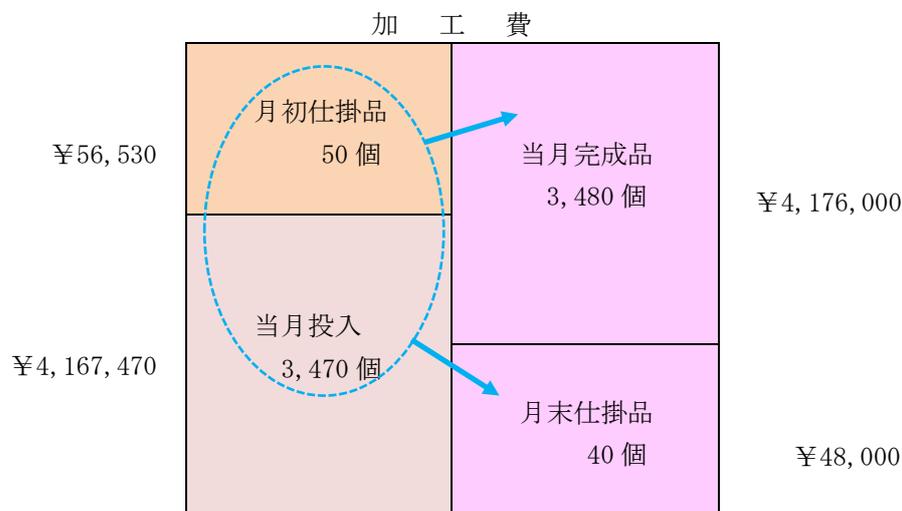
材料はすべて工程の始点で投入しており、月末仕掛品の評価は平均法による。

月末仕掛品原価と完成品原価の算定



月末仕掛品原価： (¥67,900 + ¥2,578,100) ÷ (100個 + 3,500個) × 120個 = ¥88,200

当月完成品原価： ¥67,900 + ¥2,578,100 - ¥88,200 = ¥2,557,800



月初仕掛品の換算量 = 100個 × 1/2 = 50個

月末仕掛品の換算量 = 120個 × 1/3 = 40個

当月投入の換算量 = 3,480個 + 40個 - 50個 = 3,470個

月末仕掛品原価： (¥56,530 + ¥4,167,470) ÷ (50個 + 3,470個) × 40個 = ¥48,000

当月完成品原価： ¥56,530 + ¥4,167,470 - ¥48,000 = ¥4,176,000

第4問

ア. 直接工が作業場の清掃作業に従事した時間に対する賃金消費額

→ 賃金勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわす。

イ. 完成した製品の製造原価

→ 仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわす。

ウ. 製品に対する製造間接費の実際配賦額

→ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわす。

エ. 販売した製品の製造原価

→ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわす。

オ. 製品の製造に要した素材の消費額

→ 材料勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわす。

① 材料勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、材料の消費額のうち直接材料費を意味している。よって、製品の製造に要した素材の消費額をあらわしていることになるため、**オ** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 材 料
-----------	---------

② 賃金勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしている。

これは、賃金の消費額のうち間接労務費を意味している。よって、直接工が作業場の清掃作業に従事した時間に対する賃金消費額をあらわしていることになるため、**ア** となる。

(借) 製 造 間 接 費	(貸) 賃 金
---------------	---------

③ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、製品に対する製造間接費の実際配賦額をあらわしていることになるため、**ウ** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 製 造 間 接 費
-----------	---------------

④ 仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、完成した製品の製造原価をあらわしていることになるため、**イ** となる。

(借) 製 品	(貸) 仕 掛 品
---------	-----------

⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわしている。

これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振り替えたことを意味している。

よって、販売した製品の製造原価をあらわしていることになるため、**エ** となる。

(借) 売 上 原 価	(貸) 製 品
-------------	---------

第5問

直接材料費

資料4. 当月の材料元帳より

材料元帳

(移動平均法)

E材料

(単位:円)

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
11/1	前月繰越	180	3,000	540,000				180	3,000	540,000
	2 出庫(#66)				130	3,000	390,000	50	3,000	150,000
	4 仕入	250	3,060	765,000				300	3,050	915,000
	7 出庫(#65)				40	3,050	122,000	260	3,050	793,000
	13 出庫(#67)				120	3,050	366,000	140	3,050	427,000
	16 出庫(#66)				20	3,050	61,000	120	3,050	366,000
	30 次月繰越				120	3,050	366,000			
		430		1,305,000	430		1,305,000			

直接材料費の転記

材料元帳作成より

 #65: 11/7 出庫分 ¥122,000

 #66: 11/2 出庫分 ¥390,000 + 11/16 出庫分 ¥61,000 = ¥451,000

 #67: 11/13 出庫分 ¥366,000

直接労務費の計算

資料5. 当月の直接工による作業時間の内訳と解答用紙. 原価計算表の直接労務費の合計より

① 各製造指図書の詳細作業時間を計算する(段取時間と加工時間が直接作業時間となる)

#65: 9時間+258時間=267時間

#66: 14時間+312時間=326時間

#67: 5時間+102時間=107時間

直接作業時間の合計を計算する

267時間+326時間+107時間=700時間

② 直接工の1時間当たりの賃金(消費賃率)を計算する

消費賃率=直接労務費の合計¥840,000÷直接作業時間の合計700時間=@¥1,200

③ 直接作業時間に1時間当たりの賃金(消費賃率)をかけて直接労務費を計算する

 #65: 267時間×@¥1,200=¥320,400

 #66: 326時間×@¥1,200=¥391,200

 #67: 107時間×@¥1,200=¥128,400

製造間接費の計算

資料5. 当月の直接工による作業時間の内訳 と 資料6. 当月の製造間接費実際発生額 より

- ① 各製造指図書の詳細作業時間を計算する(段取時間と加工時間が直接作業時間となる)

#65 : 9 時間 + 258 時間 = 267 時間

#66 : 14 時間 + 312 時間 = 326 時間

#67 : 5 時間 + 102 時間 = 107 時間

直接作業時間の合計を計算する

267 時間 + 326 時間 + 107 時間 = 700 時間

- ② 製造間接費の1時間当たりの配賦額(配賦率)を計算する

配賦率 = 製造間接費実際発生額 ¥1,176,000 ÷ 直接作業時間の合計 700 時間 = @ ¥1,680

- ③ 直接作業時間に1時間当たりの配賦額(配賦率)をかけて製造間接費を計算する

#65 : 267 時間 × 配賦率 @ ¥1,680 = ¥448,560

#66 : 326 時間 × 配賦率 @ ¥1,680 = ¥547,680

#67 : 107 時間 × 配賦率 @ ¥1,680 = ¥179,760

各製造指図書の集計

製造指図書 #65 <前月より製造着手 当月完成>

月初仕掛品原価	¥ 378,700
直接材料費	¥ 122,000
直接労務費	¥ 320,400
製造間接費	¥ 448,560
合計	¥ 1,269,660

製造指図書 #66 <当月より製造着手 当月完成>

直接材料費	¥ 451,000
直接労務費	¥ 391,200
製造間接費	¥ 547,680
合計	¥ 1,389,880

製造指図書 #67 <当月より製造着手 当月仕掛中>

直接材料費	¥ 366,000
直接労務費	¥ 128,400
製造間接費	¥ 179,760
合計	¥ 674,160